

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月25日
市立函館高等学校

1 本年度の重点教育目標

「令和の日本型学校教育」を踏まえ、特色と魅力ある学校教育の実現を目指す。

2 本年度の取組の重点

- (1) 生徒一人一人の可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指す。
- (2) 社会に開かれた多様で柔軟な教育課程の編成を目指す。
- (3) 「新たな教師の学びの姿」の実現を目指す。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価
学習指導	生徒個々の学力と、仲間と協力して課題を解決しようとする力を身に付けさせる授業が推進されているか。	a	観点別評価、指導と評価の一体化を効果的に実践し、授業改善を推進することができた。引き続き推進に努める。	A	A
	教育D X（PC・タブレット等の活用による教育の効率化）に基づいて授業が行われているか。	b	タブレットの等のICTの積極的な活用について、校内研修などを実施しながら、情報共有と教員個々のスキルアップを進める。	A	A
生徒指導	生徒一人一人の「自己指導能力」の育成のため、未然防止対策、即時対応、継続指導がなされているか。	a	授業をはじめ、日々の学校生活全体の過ごし方すべてが生徒指導であることを認識しながら、生徒と一緒に考えていく方向を確立していく。	A	A
	規範意識を身に付け、安全指導が適切に行われているか。（健康教育、交通安全教育、防災教育）	b	規範意識や安全指導について教育活動と結びつけながら実施しているところではあるが、自身にも起こり得るものとして捉え、直面した際にどう行動に移すのか等も課題である。	B	A
進路指導	生徒が進路目標を実現できるよう、面接・小論文・出願指導を始め、講習や模擬試験の計画的な実施が行われているか。	a	面接・小論文指導を複数教員でグループを組み行い効率化を図った。次年度も継続・修正しながら行う。	A	A
	進路選択やキャリア教育のため、総合的な探究の時間や大学説明などを通し、自己の生き方を考える姿勢を養うと共に、関係機関と連携し情報提供やガイダンスが適切に行われているか。	a	来年度も国公立大学（弘前、札幌医科大学など）の学校説明会の開催や、函館少年刑務所見学など、生徒の希望に合わせて情報提供を行う。	A	A
健康安全指導	教育相談等を通して生徒の抱える悩み等に適切に対処しているか。	b	心のアンケートや心の教育講演会等適切な時期に対処してきたが、SC常駐の状況等、年度の途中で変更が出た際に臨機応変に対応する。	B	A
地域との連携	保護者や地域からの意見を積極的に聴取し学校改善に役立てているか。	b	様々なPTA活動を通して、保護者、生徒の現状・要望を把握し、今後も生徒の学校での活動を支援する。	A	A
	「函館学」を通して、生徒に郷土を愛する気持ちを養っているか。	a	総合的な探究の時間の年間の指導計画どおり実施することで郷土を理解させる。	A	A

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。